



# InstallShield 2012 Spring Express Edition

## リリース ノート

(オリジナル リリース 2012 年 5 月、SP1 を含むアップデート リリース 2012 年 9 月)

### はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer ベースのインストーラーをオーサリングするための業界標準ツールです。InstallShield 2012 Spring Express Edition には、最新のテクノロジーを活用し、製品の品質と信頼性を高め、生産性を向上させるための、新しい機能と強化内容が搭載されています。

InstallShield 2012 Spring Express Edition は、Windows 8、Windows Server 2012、Visual Studio 2012、および .NET Framework 4.5 などの最新テクノロジーをサポートします。

InstallShield 2012 Spring Express Edition Service Pack 1 (SP1) には、Windows 8、Windows Server 2012、および Visual Studio 2012 の最終リリース版をサポートするための変更が追加されています。(メモ: InstallShield 2012 Spring Express Edition で SP1 を適用しなかった場合は、Windows 8 カスタム プレビュー版、Windows Server 2012 ベータ版、および Visual Studio 2012 ベータ版をサポートします。)

### SP1 の変更点 (2012 年 9 月)

SP1 の取得は、ナレッジベースの記事「[Q208466](#)」を参照してください。

#### Visual Studio 2012、.NET Framework 4.5、および Visual C++ 2012 サポート

InstallShield には、Visual Studio 2012 の最終リリース版をサポートするための変更が含まれており、このバージョンの Visual Studio インターフェイス内部でインストールおよび製品を開発することができます。

また、InstallShield には 2 つのアップデートされた .NET Framework 用 InstallShield 前提条件、および 2 つの新しい Visual C++ 用 InstallShield 前提条件が含まれています:

- Microsoft .NET Framework 4.5 Full
- Microsoft .NET Framework 4.5 Web
- Microsoft Visual C++ 2012 再配布可能パッケージ (x86)
- Microsoft Visual C++ 2012 再配布可能パッケージ (x64)

.NET Framework 用 Web 前提条件には、インターネット接続が必要です。この前提条件は、必要に応じて、必須の再配布可能ファイルをダウンロードします。完全な前提条件は、インターネットへの接続が不要なスタンドアロン インストールです。

#### Windows 7 以降および Windows Server 2008 R2 以降をサポートするための .NET Framework 3.5 SP1 前提条件の変更

.NET Framework 3.5 SP1 をインストールする InstallShield 前提条件は、今回より、Windows 7、Windows 8、Windows Server 2008 R2、および Windows Server 2012 で動作します。以前、この前提条件はこれらのシステム上で .NET Framework 3.5 SP1 をインストールできませんでした。

## IOA-000062896

InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトを最新版にアップグレードしたとき、プロジェクトに MSBuild .isproj ファイルが含まれている場合で Project 要素に ToolsVersion 属性が含まれていないとき、今回より、InstallShield は ToolsVersion 属性を追加します。

## IOA-000066199、IOA-000070351

COM 抽出のカーネル モード監視方式が、ユーザー別登録を実行しようとするプロキシ スタブ DLL およびその他のファイルと適切に動作するようになりました。

## IOA-000070629

プロジェクトでソフトウェア識別タグを含むように設定した場合で、リリースにデジタル署名情報を含む .pfx ファイルを指定したとき、今回より InstallShield が .swidtag に署名できなかったことを示すビルド エラー -1027 を生成することがなくなりました。

## IOA-000073286

2 つのプロジェクトで同じブラッシュ スクリーンを使用して、これらのプロジェクトから同時に圧縮された Setup.exe をビルドするとき、今回より、ビルドエラー -6003 ("%1" の Setup.exe へのストリーム中に、エラーが発生しました。) が発生することがなくなりました。以前、共有違反のために、時々このビルド エラーが発生しました。

## IOB-000061850

64 ビット システム上で 32 ビット ファイルの COM 抽出監視方式にカーネル モードを使用した場合、今回より、結果となるレジストリ エントリに Wow6432Node が含まれることはありません。

## InstallShield 2012 Spring オリジナル リリース バージョン (2012 年 5 月) の新機能

### Windows 8 および Windows Server 2012 システムをターゲットできる機能

InstallShield では、インストールの必要条件として Windows Server 8 または Windows Server 2012 を指定できます。また、機能にこれらのオペレーティング システムの条件をビルドすることができます。

Windows 8 および Windows Server 2012 にインストール可能な InstallShield 前提条件は、必要に応じて、これらのシステムにインストールされるように更新されています。以前、これらの前提条件は、デフォルトで、これらのシステムでは実行されませんでした。これは、次の InstallShield 前提条件に適用します：

- FSharp Redistributable Package 2.0
- Microsoft ReportViewer 2010
- Microsoft SQL CE 3.5 SP2
- Microsoft SQL Server 2005 Express SP3
- Microsoft SQL Server 2008 Express SP1
- Microsoft SQL Server 2008 Management Objects 10.00.2531
- Microsoft SQL Server 2008 Native Client 10.00.2531
- Microsoft SQL Server 2008 R2 Express RTM
- Microsoft SQL Server 2008 R2 Native Client 10.50.1600.1
- Microsoft SQL Server Native Client 9.00.4035
- Microsoft SQL Server System CLR 型 10.00.2531
- Microsoft Visual C++ 2005 SP1 Redistributable MFC セキュリティ更新プログラム KB2538242

- Microsoft Visual C++ 2005 SP1 Redistributable Package
- Microsoft Visual C++ 2008 SP1 Redistributable MFC セキュリティ更新プログラム KB2538243
- Microsoft Visual C++ 2008 SP1 Redistributable Package
- Microsoft Visual C++ 2010 再配布可能パッケージ
- Microsoft Visual C++ 2010 RTM Redistributable MFC セキュリティ更新プログラム KB2467173
- Microsoft Visual C++ 2010 SP1 Redistributable Package
- Microsoft VSTO 2010 Runtime

### Microsoft Visual Studio 2012 のベータ サポート

InstallShield では、Visual Studio 2012 のベータ バージョンがサポートされており、このバージョンの Visual Studio 内から InstallShield プロジェクトを作成することができます。

### Microsoft .NET Framework 4.5 前提条件

InstallShield には、Express プロジェクトに追加することができる 2 つの新しい .NET 関連の InstallShield 前提条件が含まれています。

- Microsoft .NET Framework 4.5 Full
- Microsoft .NET Framework 4.5 Web

これらの InstallShield 前提条件は、サポートされているターゲット システムに、ベータ バージョンの .NET Framework 4.5 をインストールします。Web 前提条件には、インターネットへの接続が必要です。この前提条件は、必要に応じて、必須の再配布可能ファイルをダウンロードします。完全な前提条件は、インターネットへの接続が不要なスタンドアロン インストールです。

### Microsoft SQL Server 2012 の前提条件

InstallShield には、Express プロジェクトに追加することができる新しい SQL Server 2012 関連の InstallShield 前提条件が含まれています。

- Microsoft SQL Server 2012 Express
- Microsoft SQL Server 2012 Express LocalDB
- Microsoft SQL Server 2012 Native Client

InstallShield には、Microsoft SQL Server 2012 Express の依存関係である Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 Update KB956250 をインストールする InstallShield 前提条件も含まれています。

これらの InstallShield 前提条件によって、サポートされているターゲット システムで、テクノロジーがインストールされます。

### SQL Server Compact 4.0 および JRE SE 1.7 の新しい InstallShield 前提条件

InstallShield には、Express プロジェクトに追加することができる新しい InstallShield 前提条件が含まれています：

- Java Runtime Environment Second Edition (JRE SE) 1.7
- SQL Server Compact 4.0

これらの InstallShield 前提条件によって、サポートされているターゲット システムで、テクノロジーがインストールされます。

この機能によって、IOA-000061260 と IOA-000066507 の問題が解決されます。

### 新しい FlexNet Connect 13.03 再配布可能ファイル

InstallShield は、Express プロジェクトで FlexNet Connect 13.03 をサポートします。InstallShield の [アップデート通知] ビューで、2 つの FlexNet Connect 13.03 マージ モジュール (Common Software Manager が含まれているマージ モジュールと、含まれていないマージ モジュール) のどちらかを含みます。

## 重要な情報

### InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールし、アクティベーションを行わずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、ナレッジベース記事「[Q200900](#)」を参照してください。InstallShield のアクティベーションを行うと、機能制限が解除されます。

### InstallShield のインストール、InstallShield アドオン、および再配布可能ファイルを取得する

InstallShield のインストールは、以下のいずれかの方法で取得できます：

- InstallShield DVD をお持ちの場合、インストールは DVD に含まれているので DVD ブラウザーを使って見つけることができます。
- InstallShield のダウンロードおよびライセンスについて に記載されている手順で、InstallShield およびインストールのダウンロードが可能です。

追加インストール (たとえば、InstallShield および .NET 言語パック前提条件ファイル (.prq) に含まれている InstallShield 前提条件の再配布可能ファイルなど) は、DVD から、または InstallShield と同じ場所からダウンロードすることもできます。

### InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2012 Spring の Premier、Professional、または Express は、同時に同じシステム上に 1 つのエディションのみをインストールできます。また、InstallShield 2012 Spring DIM エディターは、InstallShield 2012 Spring の任意のエディションと同じマシン上にインストールすることはできません。

### InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2012 Spring は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

### InstallShield と Visual Studio との統合

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

## プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2012 Express Edition 以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2012 Spring Express Edition にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2012 Express Edition プロジェクトと InstallShield 2012 Express Edition 以前のバージョンから InstallShield 2012 Spring Express Edition にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。この情報のアップデートは、ナレッジベースの記事「[Q204474](#)」を参照してください。

### InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield 2012 Spring Express Edition を使って以前のバージョンで作成されたプロジェクトを開くと、プロジェクトを新しいバージョンに変換するかどうかを質問するメッセージ ボックスが表示されます。[変換する] を選択すると、変換が行われる前に、例えば 0.772 というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から 0.772 を取り除いてください。InstallShield 2012 Spring Express Edition プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできないので注意してください。

InstallShield Express Edition バージョン (InstallShield 2011 Express Edition 以前、InstallShield 12 Express Edition 以前、および InstallShield Express 5 以前) で作成した既存プロジェクトを InstallShield 2012 Spring Express Edition にアップグレードすることができます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2012 Spring Express Edition にアップグレードすることはできませんの注意してください。

## Trialware サポート

Trialware ビューを含むのは InstallShield Premier Edition のみです。このエディションでは、Try and Die タイプの Trialware を作成できます。InstallShield は今後、Try and Buy/プロダクト アクティベーション タイプの Trialware を作成するためのサポートを含みません。

既存の InstallShield Activation Service アカウントをお持ちの場合、InstallShield 2012 で引き続き Try and Buy/プロダクト アクティベーション タイプの Trialware を作成することができます。具体的な手順については、ナレッジベースの記事「[Q200884](#)」を参照してください。

## InstallShield 2012 Spring オリジナル リリース バージョン (2012 年 5 月) のバグ修正

### IOA-000065376

MSBuild を使って InstallShield プロジェクトを含むソリューションをビルドしたとき、InstallShield.targets ファイルが見つからないために発生していた MSBuild エラーが発生しなくなりました。InstallShield 2012 Express Edition では、InstallShield の MSBuild サポートが、以前のバージョンのパスにインストールされていたために発生していました。

### IOA-000065602

Unicode 文字を含む .msi ファイルを持つプロジェクトで圧縮 Setup.exe ファイルをビルドするとき、Setup.exe が .msi ファイルを一時的な場所に抽出しようとしたときに発生していたランタイム エラーが今回より発生しなくなりました。

### IOA-000065717

プロジェクトに「レジストリ エントリが指定の値を含む」条件または「レジストリ エントリが指定のバージョン値を含む」条件を使用する InstallShield 前提条件を含む場合、実行時に、プロパティが正しく評価されるようになりました。以前、一部のケースで、特定の数値より小さい、または、大きい値をチェックするレジストリの比較チェックで、条件が誤って評価されていました。

### IOA-000067333

日本語のシステムでデバッグ ログ ファイルが生成されたとき、適切なラインフィード文字が使用されていませんでした。

### IOA-000068428

InstallShield の依存関係スキャナーで、構成ファイルなど、PE ファイル以外の依存関係を検出できるようになりました。

### IOA-000068513

有効にしたソフトウェア識別タグ機能を未構成のまま、リリースのデジタル署名情報を入力したとき、リリースの署名に失敗したというビルド エラーが表示されていました。

### IOC-000087762

スロバキア語の DiskSpaceRequirements ランタイム ダイアログで、正しい翻訳が使用されるようになりました。

### IOC-000087885

[一般情報] ビューの "INSTALLDIR" または "DATABASEDIR" 設定にある省略記号ボタン (...) を使って、定義済みフォルダーを選択したとき、ディレクトリ プロパティの名前に角かっこが適切に使われるようになりました。InstallShield 2012 では、角かっこが省略され、手入力する必要がありました。

## システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

### InstallShield を実行するシステムの要件

#### プロセッサ

Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)

#### RAM

256 MB の RAM (512 MB 推奨)

#### ハードディスク

500 MB 空き領域

#### ディスプレイ

1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

#### オペレーティング システム

Windows XP  
Windows Server 2003  
Windows Vista  
Windows Server 2008  
Windows 7  
Windows Server 2008 R2  
Windows 8  
Windows Server 2012

#### ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 6

#### 権限

システムの管理者権限

#### マウス

Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス

### ターゲット システム (デスクトップ コンピューター) の要件

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最低要件を満たさなくてはなりません:

Windows 2000  
Windows XP  
Windows Server 2003  
Windows Vista  
Windows Server 2008

Windows 7  
Windows Server 2008 R2  
Windows 8  
Windows Server 2012

### ターゲット システム (モバイル デバイス) の要件

InstallShield に、Microsoft Windows Mobile Device Center または Microsoft ActiveSync を使用するデスクトップ インストールにモバイル デバイス インストール追加してファイルをモバイル デバイスに転送することができるサポートが追加されました。

InstallShield では、Windows Mobile Device Center や ActiveSync、または他のデスクトップ コンポーネントを使用しないデバイスを直接ターゲットするインストールもサポートされています。

InstallShield がサポートする各オプションの概要については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「モバイル デバイスにインストールを作成する」を参照してください。

### Windows Mobile デバイスの要件

InstallShield では、多数の Windows Mobile プラットフォームおよびプロセッサがサポートされています。以下は、Windows Mobile プラットフォームの一覧です。

- Windows Mobile 6.x Professional と Classic
- Windows Mobile 6.x Standard
- Windows Embedded CE 6.x
- Windows Mobile 5.0 for Pocket PC
- Windows Mobile 5.0 for Smartphone
- Windows CE .NET 5.0
- Windows CE .NET 4.x
- Pocket PC 2003
- Pocket PC 2002
- Pocket PC
- Palm-size PC 2.11
- Palm-size PC 2.01
- Handheld PC 2000
- Handheld PC Pro
- Handheld PC 2.0
- Smartphone 2003
- Smartphone 2002

InstallShield は、この一覧にないプラットフォームもサポートしますが、デフォルトで条件設定ができないという点で上記のプラットフォームと異なります。追加のプラットフォームのサポートを追加する場合、または、特定のプラットフォームをターゲットするときの条件を変更する場合、InstallShield と共にインストールされている Settings.xml を変更することができます。詳しい情報については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「使用可能な Windows Mobile プラットフォームの一覧またはその詳細設定を更新する」を参照してください。

InstallShield では、次の Windows Mobile プロセッサがサポートされています。

- ARM920

- ARM820
- ARM720
- Common Executable Format (CEF)
- Hitachi SH4
- Hitachi SH3E
- Hitachi SH3
- i686
- i586
- i486
- MIPS R4000
- MIPS R3000
- MIPS R2000
- SHx SH4
- SHx SH3
- StrongARM-XScale

#### ***Palm OS デバイスの要件***

InstallShield では、Palm OS 3.5 以降がサポートされています。

#### ***Windows Mobile デバイス インストールのデスクトップ要件***

Windows Mobile デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピューターの要件は以下のとおりです。

- Windows XP 上にある Microsoft ActiveSync 3.x 以降 (Windows Mobile 5.x 以降のデバイスには ActiveSync 4.x が必要です)
- Windows Vista 上の Microsoft Windows Mobile Device Center
- 管理者権限

#### ***Palm OS デバイス インストールのデスクトップ要件***

Palm HotSync は、Palm OS デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピューターに必要です。

### **既知の問題**

既知の問題の一覧は、ナレッジベース記事「[Q204473](#)」を参照してください。